神恵

三重県神道青年会報 第41号

平成26年6月20日　大馬神社復興支援活動写真

会長挨拶

会長　宮﨑吉史

先ず以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げますとともに、神宮に於かれましては去る三月十六日に風宮の奉幣を以て平成十七年五月の山口祭から始まった式年遷宮諸祭が十二別宮まで無事完遂しましたこと慶賀に存じます。

愈々遷御の御年を迎える目出度き年に発足致しました今期の三重県神道青年会も役員改選の時期となりました。在任中に会長としての責務を果たせましたのも、ひとえに県神社庁、県内各宮司様方、会員諸氏の当会へのご協力ご援助の賜であると心より御礼申し上げます。

また、会長を拝命している縁により、三重県神社庁より神社本廳推薦枠にて第六十二回神宮式年遷宮遷御の儀皇大神宮臨時出仕を拝命させて戴き、御奉仕の栄に浴すことが出来ました。神職として「皇家第一の重事、天下無双の大営」をご奉仕する機会を賜ましたこと、厚く御礼を申し上げます。

昨年の榊葉では会長挨拶として「言挙げせず」の精神を持ちつつ、新たな活動を模索すると綴らせて戴きました。神道の一つの側面として道徳をもとにした日本固有の信仰・思想として生まれたものであり、遠い祖先以来連綿として続いた長い歴史を通じて存在し続け、引き継いできた道徳そのものが神道であるといった面があると思います。したがって我々神職はその態度と節度を以って世の中に手本を示し続けなければならないのではないでしょうか。そして態度で示し続ける事が「言挙げせず」の活動であると思います。

二年間様々な活動をしてまいりましたが、特に印象に残っている活動として、前期に続き執り行った東日本大震災復興支援が挙げられます。平成二十五年九月に福島県を訪れ福島県神道青年会と共に、いまだ帰宅困難地区に指定されている双葉郡浪江町にご鎮座する、苕野（くさの）神社で瓦礫撤去作業や除草作業に従事し、作業後帰宅困難地区の現状視察も実施致しました。

平成二十六年も福島県で支援活動を行う予定でしたが、台風の影響により中止になり歯痒い思いをしました。被災地を見て現状を思い知らされると共に、復興への道のりの厳しさを痛感させられました。特に福島第一原子力発電所の付近の視察では、未曾有の自然災害だけではなく、原発事故といった被害に対しての無力感を感じるとともに、これからは復興支援活動として土木作業だけではなく、生まれ育った地域に帰ることが出来ない被災地の方々に心のケアが必要であると強く感じました。生まれ育った場所を失うということは、地域の文化や風習なども失う事になってしまいます。我々は神職として様々な活動をする中で文化や風習の継承活動をしなければならいと感じました。同じく大馬神社での復興支援活動でも、地元を守っていく事の必要性を強く感じました。

他にもお宮の子供会、教化研修会等々活動を思い起こせば枚挙に暇がありません。

それらの活動を統括すれば、活動の中で会員同士の絆を深められたことが何よりの宝となり、今後の神明奉仕の大きな糧となる事は間違い無いことです。そして共に経験して得たものは全て次代への架け橋であると思います。今茲式年遷宮が目出度くも無事に齋行されたということは、次期式年遷宮の準備が始まっているということです。我々の活動も、過去の活動を規範とし途切れること無く活動を続け、次代により良い形で引き継いでもらう、これが我々に課せられた使命ではないでしょうか。

平成二十七年度はいよいよ神青協の神宮研修会が開催されます。県神社庁を始めとして、県内各宮司様方、先輩諸兄の皆様方にも変わらぬご理解ご支援をお願い申し上げ挨拶とさせて戴きます。

総務・広報委員会

総務・広報委員長　林　陽典

神宮第六十二回式年遷宮の年に、三重県神道青年会の総務・広報委員長という大役を仰せつかり、例年と同じに活動ができるのだろうかという不安を胸にスタートしました。

総務広報委員会の主な活動である『神青通信』『榊葉』の編集にあたっては、会員の皆様方には社務等でお忙しい中、原稿の作成にご協力いただきありがとうございました。また、会長・宮田副会長を始め委員の皆様には神社庁にお集まりいただき夜遅くまで編集作業をしていただいたことを厚くお礼を申し上げます。

思えば二年前の夏、神宮のお白石持ち行事で慌ただしい中、その合間で行われた多度大社でのお宮の子供会では、多度峡で参加の子供達と禊をし、多度大社の境内で子供がポニーに跨り楽しんでいたことを思い出します。また、皇大神宮の遷御の儀では、会長が臨時出仕としてご奉仕されたことも思い出します。

昨年の夏には、会長の奉務神社である結城神社にて開催されたお宮の子供会では、子供たちと武道館にてバドミントンを行ったことなどを思い出します。また、豊受大神宮別宮土宮の遷御に於いては、宮田副会長と共に遷御を奉仕するなど濃い二年間であったと思います。

来年の三月十六・十七日には伊勢市の神宮会館にて十年に一度の伊勢での神宮研修会が開催されます。会員の皆様方には、準備を始め裏方などで活躍いただくこととなると思いますが、力を合わせて中央研修会を成し遂げていただくよう宜しくお願い致します。

末筆ながら、会長始め役員の皆様と一緒に仕事ができ、共に仲間として素晴らしい時間を過ごせたことを感謝しております。

今後は後輩に託し、三重県神道青年会の発展を祈念致します。ありがとうございました。

渉外・福祉委員会

渉外・福祉委員長　冷泉光一

渉外・福祉委員会の委員長を会長より仰せつかってから早くも二年が過ぎました。

渉外福祉委員会の主な事業内容は、卒業式、新職員交流会、忘年会、新年会、親睦行事等を企画立案することです。

先ずは、七月の新職員交流会から事業が始まります。初年度はバドミントン、次年度はボウリングを行い、夫々多くの会員の参加がありました。会員の人たちが楽しんで頂ける様心掛け、限られた予算のなか景品を用意しました。勝敗は別にして皆で声を掛け合い手を打ち合っている姿を見て、やはり会員同士身近に感じ合う事は大切な事だと思いました。その後、会員たちの交流を深めるため懇親会を催しました。懇親会では新職員達がそれぞれ自己紹介をし、今後の抱負等を述べるとともに、会の発展等を語り親交を深めました。

十二月には、忘年会を執り行いました。二年目の忘年会では前日に私がインフルエンザに罹ってしまい出席する事が出来ずに心苦しく思っていましたが、委員の方達に助けられ何事もなく無事会が終ったと報告を受け安堵しました。不甲斐無い自分に腹が立ちましたが、こうしてお互いに助け合ってこられた事が嬉しく思い、委員長を務められた事を感謝します。

新年会では、神宮・二見興玉神社・猿田彦神社を参拝し、新たな気持ちを持って会の発展に尽くせるように祈願しました。その後、伊勢市内に於いて懇親会を開き、神宮神青の会員達も多く参加し、盛況のもと解散となりました。色々な行事を二年間進めてまいりましたが、こうして大過なく終える事が出来たのも委員同士力を合わせてこられたからです。

二年間委員長を務めさせて頂き、微力ながらも会の発展に役立てた事を嬉しく思います。

教化・研修委員会

教化・研修委員長　三橋　航

私が教化・研修委員会の委員長という大役を仰せつかってより早くも二年が経ちました。

会長、副会長を始め委員会の方々、会員の皆様に助けられ支えられて無事委員長という役割を務めることが出来たのだと思います。一人で出来ることには限度がありますが、そこに仲間がいれば広がりを増し、いつも誰かに助けられて生きているという事を痛感いたしました。

この二年間を改めて振り返ってみますと様々な年間事業がございました。教化・研修委員会の長年の活動の柱の一つに「お宮の子供会」があり、これは、小学生を対象に一泊二日の日程で県内の神社で夏休み中に行われる教化活動です。平成二十五年度は多度大社、二十六年度は結城神社にてそれぞれ行いました。神社参拝作法を始め各神社の特色を活かして子供たちにもっと神社を身近に感じてもらい、日本文化に興味をもってもらうための重要な活動であると考えています。

また、事業計画の中にボランティア活動を掲げ、東日本大震災の被災地支援を行いました。平成二十五年度は、福島県浪江町御鎮座の苕野（くさの）神社にて福島県神道青年会の方々と共に復興支援活動を行いました。作業後には福島県神青のご配慮により帰宅困難区域内の現状視察も行いました。

平成二十六年度は、同じく福島県神青の方と連絡を取り合い復興支援活動を行うべく計画をしておりましたが、活動日に台風が接近していた為、余儀なく活動中止となってしまったことが一番悔やまれます。

実際に被災地を訪れると、報道の映像等では伝わらない、訪れた者にしかわかり得ないであろう悲惨さを肌身で感じました。今後も微力ながら支援活動を続け、大震災の記憶を風化させないよう努めなければならないのではないかと思う所であります。

末筆ながら、皆様のお力添えに深く感謝申し上げます。

平成二十五年度 定例総会

四月十八日（金）神社庁会議室に於いて会長以下役員会員二十四名、来賓二名の出席にて開催された。

開会儀礼に続き、来賓の石上紀男三重県神社庁長、大仁田利哉三重県氏子青年会協議会長より祝辞を頂戴し、その後、井関副会長を議長に選出、議事が進められた。

平成二十五年度の会務報告、会計決算報告、監査報告が行われ各々承認された。次に平成二十六年度の活動方針並びに事業計画案・予算案の審議が行われ、夫々承認を受け、議事が全て終了した。その後、会長挨拶、神道青年の歌を合唱し、定例総会は、滞りなく閉会した。

（芦原工記　記）

会務報告

〈平成二六年四月〉
一〇日　神社総代会定例総会助勢奉仕
一一名奉仕　神宮会館
一八日　平成二五年度定例総会
二四名出席　神社庁
二二日　神青協創立六五周年記念大会
二名出席　明治記念館
二三日　神青協定例総会
二名出席　神社本庁

〈五月〉
八日　第一回役員会
一九名出席　神社庁
一三日　神道青年東海地区正副会長会
会長出席　金神社
二七～　神青協「神宮啓発研修会」
二名出席　伊勢市内
二八日　神道青年東海地区役員会
五名出席　深志神社

〈六月〉
四日　第二回役員会
一六名出席　神社庁
一八～　神青協北方領土返還祈願祭
一九日　芦原理事参加　根室市内
二〇日　大馬神社復興支援活動
九名参加　大馬神社

〈七月〉
一日　神道青年東海地区正副会長会
二名出席　金神社
八日　神道青年東海地区役員会
四名出席　穂高神社
一六日　新職員交流会
三二名参加　ミエボウル
二五日　大馬神社復興支援活動
五名参加　大馬神社
二九日　皇太子殿下神宮御参拝に係る奉迎送
六名参加　伊勢市内

神青協 神宮啓発研修会
～神宮を知り式年遷宮を伝へる研修会～

五月二十七日（火）・二十八日（水）に、次期神宮式年遷宮の奉賛活動及び氏子崇敬者の教化に繋げる事を目的として開催され、当会から会長以下二名が参加した。初日は、神宮会館にて神宮権禰宜石垣仁久先生による「せんぐう館による神宮の広報活動」をこれからの神道教化を見据えて講義を頂いた。

二日目は、内宮及び外宮での実地研修という事で、各班に分かれ、境内にて案内説明を行い、神宮職員より助言を頂き、自らが参宮団を引き連れてきた折にも戸惑う事なく神宮を案内できるよう、域内を歩き各所の知識を深めた。

（小倉孝之　記）

北方領土の碑における創立六十五周年奉告祭並びに北方領土早期復帰祈願祭

神青協創立六十五周年記念事業の一環として、六月十八日（水）・十九日（木）の両日に亘り開催され、当会を代表して参列させて頂いた。

一日目は、根室市鎮座の金刀比羅神社に正式参拝、前田康宮司より御講演頂き、北方四島には六十九社もの神社が鎮座されていたことや、移住して先ず行ったことが、神社・寺の設立であったこと等を資料を基にご説明頂いた。

次に、択捉島で生まれ育った、現在北方領土の「語り部」としてご活躍頂いている鈴木咲子先生によるお話しを拝聴した。神社信仰行事などの島内での生活やソ連軍の侵攻により、強制退去された話等を深刻な面持ちで語られた。

二日目は、納沙布（のさっぷ）金刀比羅神社境内に昭和五十三年神青協が建立した「北方領土の碑」の前で祈願祭を齋行する予定であったが、生憎の雨天により、神社横の建物の中で行われた。前日の講演を思い起こしながら祭典に参列した。

残念ながら荒天のため納沙布岬から北方四島を望むことができなかったが、岬周辺には、返還活動の一環として、様々な記念碑が建てられており、北方領土返還に対する強い思いを伺い知ることができた。

平成二十七年には終戦七十周年を迎え、ともすれば、戦争の傷跡も日本人の心から風化しかねないが、神職として常に北方領土早期復帰への想いを持ち続け、返還が叶った暁には、我々青年神職が率先して、神社設立・復興の一助を担わなければならないと感じた。

（芦原工記　記）

〈八月〉
一八日　第三回役員会
一八名出席　結城神社
二一～　神青協夏期セミナー
二二日　三名参加　神社本庁
二六～　お宮の子供会
二七日　一八名参加　結城神社

〈九月〉
十日　神道青年東海地区正副会長会
会長出席　金神社
一二日　三重県敬神婦人連合会総会助勢奉仕
一一名奉仕　神宮会館
第四回役員会
一四名出席　神宮会館
一七～　神道青年東海地区協議会
一八日　総会並びに教化研修会
八名参加　諏訪大社

〈一〇月〉
一〇日　伊佐奈岐宮・伊佐奈彌宮
遷御の儀奉拝
一三名参加　伊勢市内
二一日　第二〇回全国戦没者学徒追悼祭
宮田副会長参列　南あわじ市
二三日　猿田彦神社川原大祓の儀
九名奉仕
二四日　猿田彦神社本殿遷座祭
二〇名奉仕
三〇日　三重県神社関係者大会助勢奉仕
一〇名奉仕　神宮会館
第五回役員会
一三名出席　神宮会館

〈一一月〉
一一日　北部ブロック研修会
一二名参加　神社庁
一三日　神道青年東海地区正副会長会
会長出席　金神社
二〇日　神道青年東海地区役員会・顧問会
四名参加　深志神社

大馬神社復興支援活動

（第一回）

熊野市の大馬神社（片岡昭雄宮司）で、六月二十日（金）毎年八月に開催される神道行法錬成研修会に先立ち、禊場付近の整備作業に会長以下九名が奉仕を行った。神社庁田中安弘理事のご協力のもと、午前は、総代の方々と協力し樹木の伐採に伴う廃材の撤去作業と、禊場の土砂掻き出し作業に分かれ、午後には、禊場の土留めの作製に従事した。平成二十三年の台風十二号の復旧支援を今後も会の活動の一環として、奉仕に励んでいきたい。

（小倉孝之　記）

（第二回）

七月二十五日（金）宮田副会長以下五名が支援活動に参加した。

すでに数度の支援活動を行っていたが、現地にはまだ多くの土砂や倒木が溢れている状況であり、総代の皆様と協力して、倒木を集積場まで手作業で運ぶ作業をこなした。

当日は猛暑日となり、朝九時より黙々と作業を行い、午後三時に作業を終了した。

いつ起こるかわからない自然災害であるが、我々も防災意識を高め、災害が発生すれば我々青年会員は率先して復興支援活動に取り組まねばならぬと感じた。

（福井健士　記）

新職員交流会

七月十六日（水）伊勢市内のミエボウルに於いて開催された。会長以下三十一名（新職員十二名）が参加し、各チームに分かれ、ボウリングを楽しんだ。

どのチームもゲームの回を重ねるごとに白熱した試合となり、最後には三橋理事率いるチームが優勝を掴み取った。

その後、神宮会館に会場を移し、表彰式並びに懇親会が開催された。会長より、歓迎のお言葉を賜り、記念品贈呈、新職員の自己紹介が行われた。心を一つにし、共に汗を流すことによって、同じ三重県下にいる若手の神職同士交流をはかり、絆を深めた。

（東　省利　記）

二八日　神青協臨時総会
　　二名出席　神社本庁

〈一二月〉
四日　第六回役員会
　　二〇名出席　神社庁
　　忘年会
　　二六名参加　津市内
六日　神宮大麻頒布促進運動
　　一七名参加　鈴鹿市南玉垣町

〈平成二七年一月〉
二一日　第七回役員会
　　一六名出席　猿田彦神社
　　新年会
　　二四名参加　伊勢市内

〈二月〉
六日　建国記念の日啓発活動
　　（神宮・南部ブロック）
　　五名参加　宇治橋前
　　神宮・南部ブロック研修会
　　二四名参加　神宮会館
九日　建国記念の日啓発活動
　　（中部ブロック）
　　六名参加　津駅前
一〇日　建国記念の日啓発活動
　　（北部ブロック）
　　一〇名参加　近鉄四日市駅前
一二日　神宮神青との合同研修会
　　三六名参加　神宮司庁
一四日　氏子青年会との合同研修会
　　七名参加　三重県護国神社
二七日　中部ブロック研修会
　　一一名参加　名張市内

〈三月〉
一六～一七日　県外研修会
　　九名参加　兵庫県内
一七～一八日　神青協中央研修会
　　一六名出席　和歌山市内
二三日　第八回役員会
　　一五名出席　神社庁

神青協夏期セミナー

神青協夏期セミナーが「これからの英霊顕彰」と題し、八月二十一日（木）・二十二日（金）に神社本庁、靖國神社にて開催され、当会から三名が参加した。

終戦七十年の節目を迎えるにあたり戦前の記憶や精神文化が薄れてきているなか、国内における偏向した報道姿勢により、靖國神社を始め全国の護国神社の環境が年々厳しくなっている。また、他国の歪曲された歴史認識や過剰な内政干渉が元凶となり、英霊顕彰がままならない状況であることは憂慮に堪えない。

いま我々青年神職に問われていることは、国のために尊い命を捧げられた英霊に対する慰霊と顕彰への弛まざる姿勢と、我が国の誇れる歴史観、そして確かな国家観を再認識することである。

（西村昌登　記）

第三十五回 お宮の子供会

八月二十六日（火）・二十七日（水）「お宮の子供会」が津市内鎮座の津八幡宮及び結城神社で開催された。今回の主題は「勇気を出して、感じ伝えよう！」としたが、これは開催神社が結城神社であること、津八幡宮の御祭神が漢字の伝播に関係あられることから因んだものである。

先ず結城神社にて子供達と正式参拝。手水の所作から参拝作法まで説明し、会長の先導で参加者代表が前に進み全員合わせて拝礼を行った。

開会式に続いて班旗の作成を行った。初対面だった子供達も作成していく中で少しずつ打ち解け合っていった。会長から境内の案内と御祭神・結城宗廣公の事績についての説明後、梅苑奥の墓碑に参拝した。次に隣接する津八幡宮へ。正式参拝の後、殿内にて石上監事から御祭神と神社の歴史について説明して頂いた。

結城神社に戻り附設の道場で参加者と会員の混成チームを編成して「インディアカ」に興じた。

夕食後庭燎の集いとして境内の駐車場にて花火で遊んだのち、会員による神話劇が上演された。引き続き会員達で考えたゲーム等でおおいに盛り上がった。

二日目は早朝よりラジオ体操をして朝拝、子供達と境内の清掃を行った。

その後、津八幡宮にて氏子の方による演芸を鑑賞した。手品とどじょうすくいの見事なコラボレーションに一同は歓声をあげ、最後には手ほどきを受けて会員も一緒にドジョウすくいを踊り、その場を大いに賑わせた。

今回は急遽の欠席者が多く参加者は五名と少数であったが開催中に子供達が独自に考え出したゲームで会員と思いきり遊ぶなど、元気にそして少人数だからこそ子供達は素直に喜びや楽しみの気持ちを伝えた。主題に違わない会になったのではないかと思う。

（横山昌佳　記）

皇大神宮別宮 伊佐奈岐宮・伊佐奈彌宮 「遷御の儀」奉拝

伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮の遷御の儀が去る十月十日（金）に齋行された。先に齋行された月讀宮、月讀荒御魂宮の遷御当日は、残念ながら台風直撃の為に奉拝は中止となった。しかし伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮の奉拝は、続く台風十九号の影響が懸念されつつも天気に恵まれ、会長以下十三名が無事に奉拝させて頂くことができた。神域の明かりが全て消された浄闇の中「カケコウ」の鶏鳴三声が遠くから聞こえると、凛然とした張りつめた空気に包まれる。他の別宮のように東西ではなく南北の遷御であるため、遠くより背後へだんだんと近付く玉砂利を踏みしめる足音に一層緊張感が増す。入御の際のさわさわと吹く風に神様を感じることができ、とても貴重な体験をさせて頂いた。この機に恵まれたこと、ありがたき幸せである。

（犬飼絵里奈　記）

神道青年東海地区協議会 総会並びに教化研修会

九月十七日（木）諏訪大社下社秋宮にて総会・研修会、山王閣にて懇親会、翌十八日（金）はニューハイボウリング諏訪にて親睦行事が開催され会長以下八名が参加した。

先ず、開講式では東海地区協議会会長・梅村幸司氏による挨拶、長野県神社庁諏訪支部長・有賀寛典氏を始めご来賓の方々より祝辞を賜り、続いて総会では議長・佐藤綾子氏のもと議事が円滑に進められた。

教化研修会では、『諏訪信仰自然の中に』～自然との共存共栄～という主題にて、第一講を南信森林管理署下諏訪森林事務所・首席森林官　飯島隆男先生にて「森林の育て方」、第二講を諏訪大社・宮司・北島和孝先生にて「諏訪信仰について」の講義を頂戴した。

山国である信濃国にて人々が生活を始めた時、その偉大なる自然の力を感じ捧げた祈りは、現在でも県内各地に祖先代々受け継がれている。中でも諏訪湖畔に鎮座する諏訪大社は、その信仰を色濃く残し、古くより風と水を司る龍神信仰を始め、狩猟・農耕、生命の根源を司る神、お諏訪さまとして広く祀られている。本殿がなく御神体山や御神木を拝する形態や、式年造営御柱大祭に代表される特殊神事にその自然信仰との関わりが深い一端が窺えた。

自然保護への知識を深め、自然と祭りの在り方、自然と共に生きる心を再認識し、今後の神明奉仕に役立てたいと感じた。

二日目の親睦行事では個人成績で誰も上位に入賞する事が出来なかったが、総合成績では去年と同様に準優勝と好成績を収めた。しかし、優勝を逃したのは残念であった。

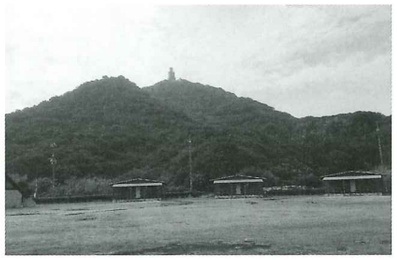
（馬場正徳　記）

第二十回 全國戦歿学徒追悼祭

十月二十一日（火）南あわじ市のじゃのひれキャンプ場に於いて開催された。例年は若人の広場を齋場として行われているが、整備事業に伴う工事のため、麓の慰霊塔を望むキャンプ場での齋行となった。

若人の広場とは、大東亜戦争において、戦地又は軍需工場で亡くなられた二十万人余りの学徒を慰霊するため、昭和四十二年に建設された追悼施設である。

当日は、神青協各地区の会員が奉仕のもと、神道を基軸としながらも、読経や賛美歌など宗派をこえてさまざまな形で御霊を御慰めした。



終了後場所を移し、直会が執り行われ、全国の青年神職と共に往時を偲んだ。

（宮田幸尋　記）

皇大神宮別宮 倭姫宮お白石持ち行事

十一月三十日（日）内宮の別宮である倭姫宮のお白石持ち行事が行われた。倭姫宮の遷御が十二月十日に齋行されるのに先立ち、正宮同様、周辺の旧神領民が中心となって開催された。県神青会員は、昨年同様桜が丘奉献団として六名が奉曳した。

十一月の寒空の下での開催となったが、晴天に恵まれ、伊勢市中村町から御幸道路を通り、倭姫宮までの約二キロを橇（そり）で奉曳した。昨年の半分の時間ではあったが、沢山の方々の協力の下、無事奉曳することが出来た。最後に、奉曳したお白石を現在の倭姫宮の隣にある御敷地に運び、遷御をいよいよ迎える準備を地元の方々と共に担うことが出来た。

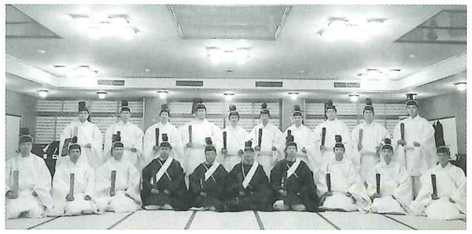
（浅野嘉之　記）

猿田彦神社本殿遷座祭

十月二十四日（金）伊勢市御鎮座の猿田彦神社（宇治土公貞尚宮司）にて御本殿正遷座祭が執り行われた。有り難くも神道青年会にお声掛け頂き、会長以下二十名の役員会員が御奉仕させて戴く好機に恵まれることとなった。

当日は十三時より本番さながらに習礼が行われ一通りの説明を受けた。私の所役は威儀物の御鉾を捧持し行列に加わることだった。習礼を終え、十八時頃より各自著装した後、所定の座に著き、胸の高まりを抑えつつ心静かに定刻まで暫しその時を待った。

十九時になり愈々正遷座祭齋行となった。威儀物が次々と召し立てられ長い行列が整い、遷御。浄闇の中、警蹕の声が響き渡り、仮殿より出御あらせられ楽の音と共に行列はゆっくりとゆっくりと本殿へと進まれた。本殿に到着すると威儀物捧持者は、傍らに整列、暫くすると、絹垣に囲まれた御が進み来て、無事に目出度く入御あらせられた。その後、威儀物が召し立てられ御本殿へと次々に御納められた。祝詞奏上、各拝礼が行われすべての行事を滞り無く終えた。



これからの長い神職人生の中でも遷座祭にご奉仕させて戴く機会はそう幾度もないことである。今回のこの重儀のご奉仕は必ずやこれからの一神職としての糧となりうることは疑いなきものであった。

改めて、ご奉仕させて頂いた事に深く感謝申し上げる次第である。

（三橋　航　記）

神宮大麻頒布促進運動

十二月六日（土）鈴鹿市南玉垣町鎮座・彌都加伎神社（遠藤龍夫宮司）に於て神宮大麻頒布促進運動が行われた。粉雪が舞う寒い中、会長以下十七名が参加した。

正式参拝の後、頒布を開始。経験者が初心者や実習生を先導出来るような班編成とした。

昨年の奉斎家庭にあっては、多くが快く受けて頂くことが出来たが、初めての家庭においては、インターホン越しに断られることが多く、大麻頒布の難しさを実感するとともに、毎年の積み重ねと継続が大切なのだと改めて感じた。

頒布活動により、神宮大麻九十七体を頒布することが出来た。

社頭と違い、自らが行動を起こすことの難しさを経験し、今後の日々の奉仕に生かしていきたい。

（勝又清晶　記）

神宮神青との合同研修会

二月十二日（木）神宮司庁にて開催され、両会合わせて三十六名が参加した。講師に神宮権禰宜石垣仁久先生を招き、「外宮再考」という主題で講話を頂いた。

本研修で、石垣先生は遷宮を終えた神宮の中で、改めて外宮に光を当て、内宮の影を鮮明にし、最終的に両正宮の御神徳を高める結果がうまれることを期待された。

外宮について基本的な由来や沿革、また社寺参詣曼荼羅等から読み取ることが出来る情景などを多角的に考察し、分かり易くご講義頂いた。

その後、懇親会も開かれ、今回は両会会員にとって、外宮を語るきっかけとなる研修会であった。

（浅野嘉之　記）

第十三回 ブロック研修会

●北部ブロック
一、日　時　十一月十一日（火）
一、場　所　三重県神社庁
一、研修内容　神社実務について
一、講　師　原　忠照先生
一、参加人数　十二名

●中部ブロック
一、日　時　二月二十七日（金）
一、場　所　アミティエ（名張市）
一、研修内容　テーブルマナーについて
一、講　師　前田裕子先生
一、参加人数　十一名

●神宮・南部ブロック
一、日　時　二月六日（金）
一、場　所　神宮会館
一、研修内容　根付作成体験
一、講　師　中川忠峰先生
一、参加人数　二十四名

北部ブロック研修会

神宮・南部ブロック研修会

中部ブロック研修会

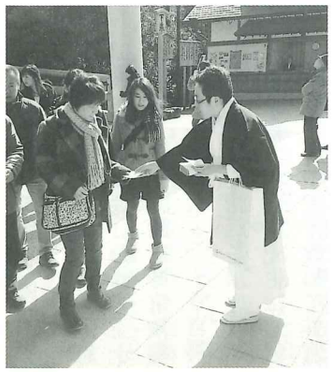
建国記念の日啓発活動
本年は松葉牡丹の種配布

●北部ブロック
一、日　時　二月十日（火）
一、場　所　近鉄四日市駅
一、参加人数　十名
一、配布数　一、〇〇〇袋

●中部ブロック
一、日　時　二月九日（月）
一、場　所　近鉄津駅西口
一、参加人数　六名
一、配布数　六〇〇袋

●神宮・南部ブロック
一、日　時　二月六日（金）
一、場　所　宇治橋前
一、参加人数　五名
一、配布数　二、四〇〇袋

北部ブロック


神宮・南部ブロック研修会

中部ブロック

氏子青年会との合同研修

二月十四日（土）三重県護国神社において三重県氏子青年協議会との合同研修が執り行われた。神道青年会は会長以下七名が参加し、氏青からは大仁田会長以下十八名が参加した。

研修は三重県神社スカウト協議会リーダー研究会と同席で「終戦七十周年記念御英霊顕彰講話」として三重県護国神社　宮司　原光夫先生から講話を拝聴した。先生は戦後七十周年を迎えた現在の靖國神社並びに全国の護国神社の状況を述べられ、それに伴う諸問題について今後の課題を指摘された。また、明治の「招魂社」を祖とする靖國神社並びに護国神社の歴史と英霊の活躍についても述べられ、それを伝える遺族会の高齢化問題を危惧された。しかし、悲観ばかりでは無く、遺族の孫・ひ孫の代が中心となって参加する「新世代の会」の立ち上げにより、遺族会の目指す世界の恒久平和の確立に寄与する活動が若い世代に継ぐ流れを喜ばれていた。

講話の後、靖國神社による企画・作成の映画『みたまを継ぐもの』を鑑賞した。映画は現代社会で足踏みをする青年の日常を中心に、自分自身に繋がる英霊が何を想い、今の私たちに何を伝えたいのかを青年が意識する事で、自身の人生を大きく好転させるという、若者の成長物語であった。作品の副題で「今を生きる私たちへ　永遠に語りかける英霊の願い」とあり、戦中・戦後・そして現代に生きるあらゆる世代の方へのメッセージとして作成された作品であった。

研修は全三時間の行程で行われ、講演・映画共に戦後七十周年の節目として相応しい内容の研修であった。今一度、青年神職として何ができるのかを見つめ直す機会を頂けた。

（佐師正康　記）

豊受大神宮別宮 土宮遷御の儀奉仕

三重県神道青年会
宮田幸尋

平成二十七年一月二十八日、土宮の遷御の儀が齋行され、三重県県代表としてご奉仕させて頂いた。今次、初めての試みとして、各別宮遷御の儀に各県一名が選出され、宮掌補として祭儀を奉仕することとなり、今回の土宮奉仕には神奈川県・奈良県・広島県・愛媛県の代表とともに宮掌補の任に就いた。

二十七日十五時、三ツ石前の祓戸に於いて川原大祓が執り行われ、神宮では遷宮諸祭にしか著けない衣冠に明衣を懸け奉仕した。その後、土宮に参進し著版（ゴザに著座すること）し、八度拝をおこなった。

二十八日十九時、浄闇のなかを大宮司以下祭員三十五名が本殿前に著版。諸儀ののち、各員が遷御の準備に取り掛かる。召立て所役が「右　御胡籙（おんやなぐい）　宮掌補　幸尋」と読み上げると、対となる時田宮掌とともに御神宝である御胡籙を御門前にて受け取り、右高に捧げ持つ。矢の入った漆塗りの胡籙は想像していたよりずっしりとした重みある。鶏鳴三声ののち、御列がゆっくりと進み始める。雨儀廊の柱に御神宝が当たらぬよう注意深く捧持して新宮へと向かう。入御ののち、すべての御神宝が新宮へ納められると、一同新宮前に著版し、閉扉。大宮司以下祭員が八度拝をおこない退下し、無事に役目を終えた。

県外研修会

三月十六（月）、十七日（火）今年度の県外研修会が開催された。宮田副会長以下九名が参加し、兵庫、大阪、和歌山の三県にて、六つの神社仏閣を参拝・見学した。

一日目は兵庫・大阪を中心に研修し、本年戦後七十周年を迎えることから大阪護國神社を参拝した。参加者らにはこの節目の意味を改めて考える機会となった。

二日目には和歌山県海南市の伊勢部柿本神社を正式参拝した。このお社は現在、元三重神青会員である塩崎昇氏が宮司を務めており、神社の御由緒など丁寧に説明頂き、また会員であった当時の事を、懐かしむようにお話を頂いた。身近な先輩を通して良い研修となった。

（吉田実生　記）

神青協中央研修会

三月十七（火）、十八日（水）和歌山市において神青協中央研修会が開催され、全国から三百名を超える青年神職が集い、三重神青からも会長以下十六名が参加した。

『「和」の誇り』を主題に開催された本研修会は、一日目にはサイモン・ワーン氏、田中章二氏、二日目には福本出氏を講師に迎え、それぞれの立場からの「和」について御講演頂いた。先生方の立場はそれぞれに異なるものの、それを「和」という日本人的精神から繋いでいくと、実に豊かで学ぶべきことの多い研修会であった。

また、一日目の夕刻開かれた懇親会も、全国の同志たちの「和」ともいうべき、それぞれに語り合う様子が窺われた。来年度三重県で行われる神宮研修会の前に相応しい研修会であった。（吉田実生　記）

会員ニュース

結婚

平成二六年
四月　一日　増田　秀麿君（新婦）奈津美さん
五月一七日　杉谷　健文君（新婦）文香さん
一〇月二〇日　村田　卓謹君（新婦）直子さん

平成二七年
三月二六日　横山　昌佳君（新婦）知佳さん

出生

平成二六年
六月　二日　工藤　正弘君（長女）瑞生さん
七月　三日　神田　直久君（長女）日菜子さん
一一月二六日　鐙谷　嘉樹君（次女）沙予子さん
一二月　三日　西本俊一朗君（次男）敬俊君

平成二七年
一月　五日　竹内　一将君（長男）奏仁君
一月二〇日　杉谷　健文君（長男）健正君

卒業者芳名

（敬称略）

菅井　太郎　多度大社権禰宜
日下　長豊　大神社禰宜
若林　祥人　辰水神社禰宜
宮本　真吏　官舎神社禰宜
石上　陽祥　津八幡宮禰宜
宮崎　吉史　結城神社禰宜
清水　雅士　八幡神社禰宜
塚本　敏　猿田彦神社権禰宜
鈴木　和裕　世木神社権禰宜
廣岡　靖晃　木代神社宮司
葛原　正貴　須智荒木神社禰宜
多田　裕樹　布氣皇舘太神社禰宜
大越智慎二　亀山八幡神社宮司
土田　晃久　神宮宮掌
時田　雄平　神宮宮掌
佐藤　了古　神宮宮掌
松岡　弘典　神宮宮掌
大野　由之　神宮宮掌
井面　健　神宮宮掌
磯島　一郎　神宮宮掌
山内　健史　神宮宮掌

会　報「榊　葉」
第41号
平成27年3月31日
発行者　宮崎吉史
編　集　総務広報委員会
発行所　伊賀市下郡591
猪田神社内
三重県神道青年会